

Ayagumo

Anjo Gakuen Highschool Newsletter

彩 雲

2020
vol. 124
発行日 / 11月10日



／コロナに負けるな／ 特集1 休校中の取り組み

特集1

特集2

吹奏楽部リモートワーク伝

リモートワークしていたら
星野源が感動してMステにも出演した話



表紙の写真

生徒会企画アンブレラサイ

コロナウィルスの影響で学園祭を例年通りには行えない状況のなか、少しでも鮮やかに華やかにするためにカラフルな傘で正門を飾りました。今に目を向けがちな時ですが、未来に目を向けようとカラフルな傘に全校生徒の願い事を託しています。

Contents

1	巻頭言
2-4	休校中の取り組み
5-7	学園祭
8	未来対話
	響き合うまちと学校
9-10	吹奏楽部リモートワーク伝
11-14	部活動Report
15	TOPICS

principal
speech

巻頭言

「ねがい」 見えない根たちの ねがいがこもって あのような美しい花となるのだ

(日本の仏教詩人 坂村真民)

坂村真民とは、“一遍上人”の生き方に共感し、癒しの詩人と言われる、たくさんの詩を飾らない言葉で詠んだ熊本県出身の詩人です。見たこと、聞いたこと、感じたことがそのまま詩となり、小学生から大人にまで多くの人々の心に届く作品を残しています。

新型コロナウイルス感染症という未知の敵と戦っている我々は、まさに「この根たち」であり、この「根たち」のねがいが、いつか大地の中で見えない大きな支えとなり花を咲かせる。しっかりした「根たち」がなければ美しい花は決して咲かない。いつか必ず地上に咲いた美しい花々を見、そして「根たち」の力を感じる日がくることをねがう。こんな気持ちで、この詩をあらためて読み返しました。

「ウィズコロナ」「アフターコロナ」といったフレーズをよく耳にしますが、私たちは現在の状況と対峙し、かつ真摯に受け止め、我々自身のこととして認識したうえで、「ビヨンドコロナ」(コロナ禍の先に、と言った意味)を見据え、この時期を「自分が変わる」「一步前に進む」機会ととらえ、いずれ咲く美しい花のため大きな支えとなるよう、しっかり根をはる努力を忘れないで下さい。

新型コロナウイルス感染症と共に生きる社会を考えるにあたって...

安城学園高等学校
学校長 関 神一



コロナに負けるな

休校中の取り組み

数学

初めてのリモート授業

数学科教諭 小山正純

4月の段階で、リモート授業について次のような危惧を抱いていました。①生徒たちの反応を見ながら授業がしたいが可能なのか? ②リモート授業に参加しなかった生徒にどうアプローチしていくのか? ③生徒の質問等にしっかり答えていくことができるのか?

これらの課題を抱えながら、何人かの先生が始めていたZoomによるリモート授業に、少人数の選択授業であった数学Ⅲで取り組みました。

選択者は9名なので画面に生徒の画像を映し出すことが可能で、反応を一画面で確認できました。また事前にプリントを送ったり、事後に画像を送ったりするのに、classiやgoogleのclassroomを利用しました。しかしどの程度の効果があったのかよく分からず、他



教員からも「学力格差を広げてしまった!」という意見も出ました。初めてのことで改善・改良の必要がありますが、教員にとっては、短時間で内容や進度を確保するために教材研究や教具作成に普段より力を入れたことで、力量アップにはつながっていったと思われます。

高校英文法 学習動画集

何度でも学習できる解説動画

英語科 国分涉悟

高校で習う英文法を全てオンラインベースで学習できるように、解説動画を作りました。学習用のハンドアウトはPDFもしくは紙で渡し、解説動画を学習者の携帯・タブレット端末で視聴し、好きな時間に何度でも学習ができるようにしました。「黒板を使って解説をする」ことは、全て映像化することが可能です。授業中の一方的な講義形式の時間を省略し、授業は活動を中心に行うことができ、生徒の満足度も高いです。生徒目線で喜ばれるポイントは、「テスト前に先生の解説を聞いて復習ができる」ところのようです。今後は、①学習動画で学習→②オンライン上で小テストを受ける(現在作成中)→③フォローアップの課題を行う、の流れで学習者がどんどん先へ学習を進めていけるようにしていく予定です。



オンラインコミュニケーション英語Ⅲ

3年1組・5組 コミュニケーション英語Ⅲの授業

英語科 国分涉悟



「休校中も学びを止めない!」を合言葉に、大学入試に向かう3年生の英語コースと文理Iクラスの総勢62名に対して、週3回の授業を実施しました。Zoomを使用した授業展開では、資料や映像を瞬時に画面に映すことができるため、テンポ良く授業を進めることができます。個人メッセージも送り合えるため生徒は先生に質問もでき、教員からは全体に対して、チャットボックスに発問・出題をすることもできます。また、授業の内容を録画することもできるので、諸事情により授業に出られなかった生徒には録画した授業を送信してあげられます。オンライン授業のおかげで教科書がほとんど終わったため、休校明けからは大学入試問題を使った演習の授業を行うことができました。新しい取り組みでしたが、問題が起きることなくストレスフリーで楽しむことができました。

休校中の取り組み

学級活動

離れていても 3年7組は1つプロジェクト！

3年7組担任 石田桂

4月は始業式の1日だけ登校し、再び休校となりました。その1日で「誕生日カレンダー」と「こんなクラスにしたい」という掲示物を作成しました。みんなの居場所はここだと伝えたかったからです。そして毎朝8時40分に、朝のSTとしてクラスのグループLINEに「今朝の連絡」を入れ続けました。桜やチューリップの動画、コロナウィルスの情報、進路選択のポイント、クラスの仲間の誕生日にはおめでとうスタンプでお祝いしました。そして「離れていても3年7組は1つプロジェクト！」として、第1弾「絵しり

とり」にチャレンジ！しました。自己紹介の意味も込めて絵しりとりを行い、全ての画像を繋げて動画にしました。全員が参加でき楽しめた企画でした。第2弾はテーマを「自宅待機の過ごし方」として、前向きな活動の動画を集めて動画にしました。運動・料理・映画やペットの紹介など、心がほっこりしたり笑ったりできる作品になりました。

これらの活動は、インターハイがなくなり喪失感に涙した仲間や、進路に不安を抱える仲間を励ましたいと思って行いました。また、離れていてもクラスづくりにはやれることがあると思いチャレンジしました。この成果もあり、6月の学校再開からは明るい雰囲気の中でクラス活動をスムーズにスタートでき、クラスの仲も深まっていると感じています。

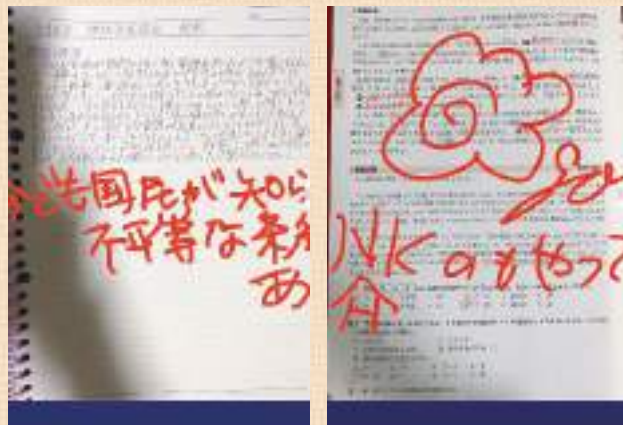


休校課題の取り組み

ロイロノートに初挑戦！

桃木雅代

休校中の課題を生徒に指示しながら、ロイロノートの仕組みについて、若手の先生方に学びながら挑戦してみました。きちんと取り組んでいる生徒にメッセージを送りたくて、電子ペンも購入！自宅でのリモートワーク中にも悪戦苦闘しながらコメントを書き込みました。普段は検印だけになりがちですが、時間がある中で一人ずつの取り組みをしっかり見られてよかったと思っています。



学び探究部

全校生徒に向けて学びの場を提供

英語科 国分涉悟

学び探究部は2020年4月に始動しました。しかしコロナウィルス感染症の影響で学校が休校になり、部員がいない状態でのスタートとなりました。そこで私たち学び探究部の顧問は、この休校期間中、全校生徒のみなさんに「学びの場」を提供したいと思っています。みなさんのCuriosity（好奇心）を大切に、より深い学びを手にしていけるよう発信していきます。YouTubeでの授業ライブ配信（数学）、Zoomでのオンライン授業（英語）を毎週実施し、安城学園高等学校の生徒なら誰でも参加することができる開かれた学びの場を提供してきました。詳しくは学び探究部公式サイトをご覧ください。



○学び探究部公式サイト



休校中の取り組み

女子バスケットボール部

ポジティブな心で 2つのことにトライ

女子バスケットボール部顧問 金子寛治

休校中に取り組んだことは、文武両道・心体技を、休校というマイナス要素に負けずにポジティブな心の持ち方でトライしていこうということでした。実施したことは、主に2つ。1つは、生徒とのメールのやり取りにより、良い情報は部内で共有し、通常の学校の勉強以外に4つの勉強を行ったこと。具体的には、1.脳科学2.運動生理学3.栄養学4.体育心理学で、自学形式で良い刺激となりました。中には、メンタルが逆に成長した子もいました。もう1つは、リモートでTV会議形式で、顔を合わせながら情報交換をしていたこと。生徒同士の心の交流が生まれ、非常



に有意義な時間となりました。トレーニング等の情報交換もでき、とかく不安になりがちだった状況を変えることができました。

陸上競技部

リモート中の取り組みについて

陸上競技部顧問 早川周吾

休講期間中も練習メニューを送付し、自主練習という形で各自でできる範囲の練習を続けていました。週に1度はメールで練習や進路の報告を行い、学年ごとにテレビミーティングなども行って歩みを止めないように頑張ってきました。しかし、インターハイの中止が発表されると生徒たちの気持ちは一気に落ち込み、声かけもなかなか難しい現状がありました。そんなとき、YouTubeを使って、私と石田先生で陸上競技部を紹介する動画、在校生からリモートで集めたメッセージ動画、卒業生からの激励メッセージ動画などを「コロナに負けるなシリーズ」として公開しました。反響は思ったよりも大きく、卒業生たちが後輩たちの活動を知る機会にもなりました。この時期から、練習で行うドリルや補強を主



に新入生に指導するためにYouTubeに公開し、メールでの現状報告のときには、動画を見ながら生徒が行った練習動画のチェックなどをすることもできました。離れていてもできることはあると前向きに捉えて模索したこの期間は、とても考えさせられる機会になりました。



弦楽部

リモート演奏

弦楽部顧問 近藤紫

今年度新型コロナウイルスの影響で目標にしている演奏会などが次々となくなり、休校のため仲間にも会えず、全員のモチベーションを維持することは難しいことでした。それでも少しでも前に進むため、それぞれの演奏を重ね合わせるリモート演奏動画を作ることにしました。まず、今年度のコンクールに応募するジョンラターの弦楽のための組曲に取り組みました。自分の動画を撮影することで、全員で演奏しているときにはわかりづらい自分の音に向き合うことができ、一人一人の完成度を上げることができました。また、自分たちの演奏をいろいろな人に発信していきたいと部員から声が上がリ、星野源さんの「うちで踊ろう」を演奏しSNSにアップすることにしました。動画を通して聴いてくださる



方がいて、リモートではありますが人前で演奏する喜びを改めて感じました。コロナ禍だからできないことなく、コロナ禍だからこそできることを見つけ、部員一丸となって頑張っていきたいです。



学園祭 9/23^水・24^木・25^金



今年の学園祭のテーマは「PROSPECT」です。「可能性」「将来性」という意味の言葉で、「より良い未来を作るために私たちは何を選択すべきなのか」というテーマに基づいて「コロナ・エネルギー・平和」の3つの観点から、国語科・理科・地歴公民科の先生方による連動授業が展開されました。戦後75年と言う節目の年に、これからの未来を作っていく私たちが押すべき「未来スイッチ」とは…。学園祭を軸に「授業」を巻き込んだ壮大なテーマ企画にける想いを語ってもらいました。

学園祭にける想い

前期生徒会書記 澤田 柚葉

今年の学園祭は新型コロナウイルスの影響により、例年通りのスタイルで学園祭を行うことはできませんでした。しかし、三密を避けるなどのコロナ対策を行い、今年だからできたやり方で学園祭を行うことができました。クラス企画では、教室で企画をする1、2年生に密閉空間を避けられる企画を考えてもらいました。ステージ企画を行う3年生には、ステージ上で飛沫が飛ばないような工夫や、できる限り密にならないようなステージを作ってもらいました。全校の皆さんの思い出に残るような学園祭を作れるように、生徒会・学園祭実行委員会で頑張ってきました。どのようにしたら皆が楽しめる学園祭になるのかを考え、たくさん打ち合わせをしました。体育館に全校生徒が入ることができない中でも、みんなにステージ企画を見てもらいたいと思い、教室に中継を繋げられるようにしたり、こまめに体育館の換気を行いました。

学園祭当日はみんなの笑顔をよく見ることができ、大変なこともたくさんありましたが、学園祭を無事行うことができて本当に良かったと思います。

今回私は、学園祭を通してたくさんの人に感謝を伝えたいです。多くの制限がある中で、思い出に残るような企画を中心となって考えてくれたクラスのリーダー会、会場設営や当日の仕事を手伝ってくれた多くの部活動生、変更点が多かった中今年だからできる学園祭を作ってくれた学園祭実行委員会、そして学園祭を成功させようと全校の皆さん一人ひとりが、様々な場で協力をしてくれました。また、先生方の協力があったからこそよりスムーズに学園祭を行うことができました。学園祭に携わることができて、私自身成長することができたので良かったです。

学園祭で力を入れたこと

前期生徒会副会長 安齋 優華

例年と同じような学園祭はできませんでしたが、学園祭は1年に1度しかないものなので私が学園祭にかけた思いはひとりでも多くの人が今年の学園祭も良かったと思っていただけることです。また、コロナだし…ではなくて今だからこそできる学園祭今しかできない学園祭を作り上げることです。私は学園祭実行委員会が始まる前から今年の学園祭が例年通りにできない事、もう既に対策として一般公開ができないということは決まったということ、模擬店もできないかもしれない、というマイナスなことばかり言われました。しかし、他の学校では学園祭や文化祭が無くなる中安城学園では学園祭ができるという状況に有難く思いました。そして同時に例年通りにできない事で全校の生徒はきっと不満に思うので、そのためにはどうしたらより良い学園祭を作れるのかと思いました。

私は色々なことができない事で学園祭の祭り要素が少ないなと思いました。生徒会企画を考える際に学園祭をより鮮やかに華やかにするためにカラフルな傘で正門を飾ろうと「アンブレラスカイ」を行いました。今に目を向けがちな時ですが未来に目を向けようと、カラフルな傘に全校生徒の願い事を託しました。アンブレラスカイを行うにあたって危険性があるので、それに対する対策も何度も先生と話し合いました。また、台風が近づくことでアンブレラスカイができないかもしれないということになりそうでしたが、当日は台風もそれてたくさんの生徒が写真を撮ってくださいました。そして、先生方にも褒めていただけて成功させることができました。

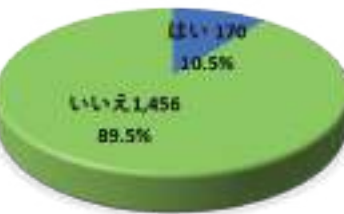
学園祭実行委員会テーマ企画

私たちは未来創造者～あなたはどんな未来スイッチを押しますか

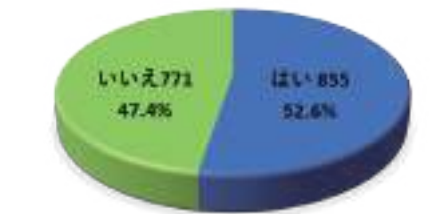
日本は平和だと思いますか
(第2回アンケート・回答数1,626人)



世界は平和だと思いますか
(第2回アンケート・回答数1,626人)



平和な戦後100年を迎えられると思いますか
(第2回アンケート・回答数1,626人)



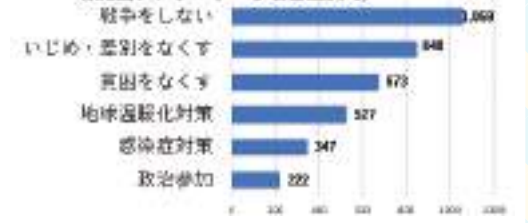
日本が平和だと感じる一番の理由
(第2回アンケート・回答数1,019人)



世界が平和でないと感じる一番の理由
(第2回アンケート・回答数1,456人)



平和な戦後100年を迎えるため
(第2回アンケート・3項目選択可)



様々な人々を想像する



国語科
特別授業担当教諭
小川立子

8月、「テーマ企画」の生徒たちと打ち合わせをしたとき、彼らがこの夏、「コロナ後の未来」「平和な未来」「持続可能な未来」について、どれだけ調べ、考えてきたかを知り、驚くと同時に、「未来に対する不安」を「希望」に変える企画にしたいのだ、という本気を感じました。エネルギー問題や戦後の道のりにおいて、ドイツをひとつの比較対象としているということだったので、国語科では、ドイツのメルケル首相が3月18日に行ったテレビ演説を取り上げることにしました。このスピーチは、人々の心を揺さぶる演説として知られています。しかし国語の授業では、文章を批判的・客観的に読むことが重要だと考えました。ドイツが戦後たどった道のりの複雑さも表れているスピーチなので、他国の戦後75年についても考えるきっかけになると思いました。

授業で考えてもらったことは二つです。「人々の心を打った部分はどこだろう」、「スピーチにある『コロナ禍における愛情や友情の示し方』を考えよう」です。二つの問いに共通していることは、「様々な人々を想像する」ということです。どの言葉に、どのような人々が感動したのか。「愛情や友情を示したい人々」を、どれだけ想像できるか。

国語では、登場人物がたとえ悪人であっても、「なぜそのような行動をしたのか」と考えます。想像力をつけて、異なる考えの人々と協力し、未来を創ってほしいと願って私たちは授業をしています。

自分のなかに新たな目線が誕生した

機会をくれた実行委員の生徒たちに感謝の気持ちを込めて、授業の感想を紹介します。「この授業を通して、様々な人のことを想像したり、考えたりすることは、とても大切なことだと気づくことができました。自分のなかに新たな目線が誕生したような気がします。」

何ができるか考え続けられる大人に



地歴公民科
特別授業担当教諭
中村友洋

地歴公民科では「テーマ企画」に協力し、学園祭前に全クラスで特別授業を実施しています。2017年から「憲法第9条改正・模擬国民投票」「安城市における原子力発電所建設・模擬住民投票」「模擬衆議院・比例代表選出選挙」。そして、今年は「どんな未来スイッチを押すか」で、「平和」に関する授業を、地歴公民科全員で展開しました。

地歴公民科が重視してきたのは、「難しい問題、判断がつきにくい問題に対して、自分の考えを持つ、意思を表明する」ということです。

18歳選挙権が導入され、学校生活のなかで、投票や自分の意思表明を行う場があるのは、とても大切なことです。社会に向けて自分の意見をあらわすのは勇気があることですが、「分からないから投票に参加しない」を減らす挑戦です。

「自分の意見をもつ」「それを他人と交換する」「それによってまた新たな意見をもつ」ことの一助となればと思い、今回も授業を行いました。様々な事実や歴史、問題点を知り、「これから自分はどうするか」「何ができるか」考え続けられる大人になってほしいと思います。

無関心は大きな罪

ある生徒の感想です。「無関心は大きな罪だと改めて感じました。ナチスドイツの収容所を見学した周囲の人たちの『知らなかった』という言葉に驚きました。でも、それは今の私たちにそっくりだと気づき、同時に怖くなりました。何も知らずに、考えることをやめている私たちが、どうやったら『ジブンゴト』として考えられるようになるのか。行動に起こせなかったとしても、『まずは真実を知ること』から、関心だけはなくしてはいけなかったと思いました。」



「自分の意見を持つこと」「リーダーシップとは何なのか」

テーマ企画チーフ
玉置 嶺雄
(福岡中学校出身)

テーマ企画は毎年、社会問題を扱ったシンポジウムを開いてきました。今年は様々な制約があるなか、議論を重ね、「未来」というキーワードにたどり着きました。「コロナ感染症」「平和」「エネルギー問題」の3つを柱に、いろいろなことを知り、自らの意思で選択してほしいという思いを込め、タイトルを「私たちは未来創造者～あなたはどんな未来スイッチを押しますか」に決めました。

学園祭実行委員会のメンバーで、安城市歴史博物館特別展「戦争に行くということ」に出掛け、前夜祭「ピースプロジェクト」が誕生します。投票の代わりに「平和」に関するネットアンケートを実施。設問や選択肢を考えることは、様々な知識や知恵があることですが、考えることは楽しかったです。担当の先生の協力で、配信。回答数は1回目1,178人、2回目1,626人。特に2回目は父母の方など500人近い協力も得ました。

調べた内容は「未来新聞」6号に掲載しました。国語科、理科、地歴公民科の先生にも論議に加わってもらい、「特別授業」の方向性を探り、全校生徒が考えるきっかけを作りました。学園祭前日9

《高校生記者》 ()内は出身中学校
●報道部長 玉置 嶺雄(福岡)
●報道部次長 安齋 優華(竜北)
●「平和」「コロナ」「エネルギー」各担当記者
辻 颯太(明祥) 大塚 亜美(前林)
及川あすか(東山) 末永 遥巳(愛教附岡崎)
鈴木 佑依(西浦) 安藤 彩乃(竜北)

時から「AG News 9」30分番組を全校放送して、3つの課題をまとめ、「未来宣言」を発表しました。

「自分の意見を持つこと」や「リーダーとは何なのか」を考えさせられました。「テーマ企画」は、僕を大きく成長させてくれました。「できないのではないか」という不安に襲われ、何度も心が折れそうになりました。支えてくれたのは、あきらめずに調べ、様々な提案をしてくれた仲間でした。論議を重ね、「何を伝えたいのか」という着地点が見え始め、企画が一気に進み、考えてもらうきっかけを提供し続けました。

クラスメイトから「よく分かった」「こういうことって面白い」という声を聞き、うれしくなりました。多くの人が社会問題に目が向いている瞬間を感じることができました。

濃い2か月でした。「AG News 9」で、宣言文を読み終え、涙が止まらなくなりました。その涙は「テーマ企画」のメンバーや協力してくれた生徒や先生たちへの「感謝」、メンバーと苦労して汗や涙を流して、作り上げたテーマ企画の「感動」からでした。今回の取り組みは完結ではなく「未来」に向かって、スタートを切ったという気持ちです。

風をよむ (抜粋)

当たり前だと思っていた日常は
ウィルスの脅威によって奪われた
始業式の翌日から休校になり
授業・行事・クラブもなくなった
当たり前の日常は
決して当たり前でないことに気づかされた

私たちは日常生活で
まわりの「空気をよむ」ことに敏感だ
しかし 社会や世界の風は
激しく めまぐるしく吹く
個人も 学校も 国も
吹く風に敏感でなければならない
時には向かい風でも
声を上げなければならない
私たちの「未来」や「可能性」を
奪われないために

戦争も 原発も 基地問題も ゴミ処理場も
ジブンゴトとして捉え
ローカライズ(現地化)できるかが問われる
そんな問題を真正面に捉え
学び 伝えようとした「高校生記者」がいた
何度も話し合い
「平和アンケート」「未来新聞」「特別授業」
にたどりついた

真につながるには
「シンパシー(同情)」ではなく
「エンパシー(共感)」が必要となる
そんなことを教えてくれた
「高校生記者」に 拍手を送りたい

「人は集団の方が創造力に富む」と
米 Yahoo !は 在宅勤務をやめた
国連で 難民対策に情熱を燃やした
緒方貞子さんは こう言った
大切なのは 苦しむ人々の命を救うこと
自分の国だけの平和はありえない
世界はつながっているのだから…

(テーマ企画担当教諭 地頭雅春)



未来対話フューチャーセッション



社会課題に目を向け 「何ができるか」を探究

教諭 柴田匡彦

2019年度より、総合的な探究の時間で「未来対話(フューチャーセッション)」をスタートしました。生徒自身が現在の社会課題に目を向け、「自分を守り、周囲の人を守り、地域を守るために、何ができるか」を探究しています。昨年度は「防災」をメインテーマに据え、地域で取り組む方を招き、講話を受け、厚生病院や消防署にもフィールドワークを行いました。多くの活動を通して、自分たちが発信できることは何かを考え、市民の方々に伝えました。今年度は、大きな影響を受けている今だからこそ「コロナウイルス」をテーマに設定しました。9月の中間発表会へとつなげていきます。



表会では、「コミュニケーション」「ライブ」「10万円」「書籍」「福島ひまわり里親プロジェクト」「企業」「看護」「アジアの医療」「ゲーム×ストレス」など多種多様な関心事と「コロナウイルス」をつなぎ、生徒自身の考えや解決策を伝えました。アドバイザーとして愛知学泉大学・愛知教育大学の先生や、社会人講師の方々をお招きし、講評をいただきました。11月末に予定している最終発表会へとつなげていきます。

吹奏楽部 第65回定期演奏会

最高のファーストステージ
今後も素敵な演奏・演技を

10月に行われた第65回定期演奏会において、僕たち1年はやっとファーストステージを披露することができました。第1部では1年だけの曲があり、先輩方に教えていただいたことを十分に生かした演奏ができました。第3部ではガードとして初めてお客さんを前にフラッグとライフルを披露しました。1日目は緊張からミスをしてしまい悔いを残す結果となってしまいました。その悔しさから2日目をすべてのトスをキャッチすると決めて挑み、ミスすることなく最後のトスを決め、最高のファーストステージを締めくくることができました。

コロナ禍で思うように練習が進まず不安もありましたが、先生方や先輩方のご指導のおかげで感動の涙を流すことができました。これからも様々なことに挑戦し、たくさんのお客様に素敵な演奏・演技を届けられるように頑張ります。今後も応援よろしくお願いします。



リモートワークしていたら 星野源が感動して Mステにも出演した話

電腦顧問による吹奏楽部リモートワークの記録
竹内徹（吹奏楽部顧問）

休校！？部活できないの？明日からうちで練習？

2/28（金）、定期演奏会を終え、卒業生も無事送り出した定期試験の最終日、休校は突然やってきました。部活は中止ですね？！

偶然私は吹奏楽部で合奏した音源を配信するシステムをG-Suiteで構築中だったので、急遽一晩でリモートワーク用に作り直し、翌日2/29（土）最後の部活の2時間で全員に録音ソフトとG-Suiteをスマホにインストールさせ各自楽器を持って解散、と慌ただしく在宅練習が始まりました

在宅練習は①課題が出される（毎日）②練習する③録音して提出④先生から点数とコメントがついて返却⑤合格するまでやりなおし、という流れ。音階練習や課題曲の指定箇所をひたすら練習。体力づくりや音楽知識も平行して配信されました。

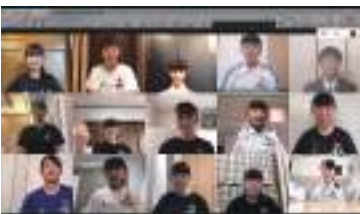
吹奏楽の最大の問題は「音がうるさい」。自宅で1日ずっと練習できる幸せな部員だけではありません。近所迷惑を考え河川敷まで出かけたり、仕事帰りの親の車でドライブしながら楽器を吹くなど、家族ぐるみで工夫されたようです。保護者の方のご苦労には、いつも本当に頭が下がります。



再開・入学式・再び休校

3/21（土）、部活動が再開。3時間以内の2交代制で合奏禁止の制約はあっても、仲間と会えて楽しい春休みの部活が戻ってきました。

入学式・始業式で新入生に会えたのもつかの間、3日目には再び長い休校に入りました。生活リズムが乱れないように、情報が行き届くようにMeetによるオンライン朝礼・終礼もし始めました。



「うちで踊ろう」 神速で完成させたリモート合奏

いつ終わるか分からない休校で、課題だけやっているのも疲れます。4/3（金）に星野源さんの「うちで踊ろう」が発表され、ミュージシャンがコラボし始めました。吹奏楽でも大阪桐蔭さんがリモートワークでいち早く演奏していたので、原田先生と「これ面白い！やろう！すぐに！」とプロジェクトが立ち上がりました。

4/16、原田先生が一晩で音撮りと吹奏楽編曲を仕上げて部員にpdfで楽譜を配信。部員は楽譜を自宅プリンターかコンビニプリントで印刷しすぐに練習。イヤホンから流れるメトロノーム



のクリック音だけを頼りに演奏して、その姿をスマホで撮影しClassroomにアップします。打楽器は楽器がないので「キッチンバンド」としてフライパンやコップ、ゴミ箱を使ってリズムを刻みました。提出期限は4/18。朝練習して夕方には提出。ダメ出しもあります。

問題は編集です。2、3人のコラボ映像一星野源と誰かーはアプリで手軽に作れるのですがこちらは90人。手動でやるしかありません。もちろん音楽として良くなければ安城学園吹奏楽部としてやる意味がない。一人一人音のタイミングを合わせてバランスも取って、そして画像も配置してと、私とパソコンの限界に挑戦しながら4/19深夜完成！早速インスタとYoutubeにアップしました。ここまで4日間。今考えてもあり得ないスピードで作上げた作品です。

星野源に届いた！そしてミュージックステーションへ

「うちで踊ろう」の動画は一気に視聴回数が伸び、1日で再生回数1万回を突破。そしてなんと本人に届いた！星野源本人のストーリーズにピックアップされ「感動した！」のコメント！やった！ほどなく4/27にCBCテレビ「チャント！」で動画が紹介され、さらに反響が広がっていきました。

5/1（金）ミュージックステーションで星野源特集。「うちで踊ろう」の様々なコラボの中でも高校生の合唱・吹奏楽が嬉しかった・感動したとして紹介されました。信じられない！！生徒たちも顧問達も楽しく演奏させてもらったのに、こんなご褒美があるなんて！

星野源さんはオールナイトニッポンでも8分にわたり吹奏楽部と原田先生の熱い想いを話題にしてくれました。“電腦顧問”の仕事も話題に。実は「うちで踊ろう」のオリジナル音源はテンポが大きく揺れていたの、編集でメトロノームに合うようにこっそり修正しているのですが、「生演奏でコラボして欲しくて、打ち込み系では合わないようにわざとテンポを揺らしたのに、おかしいなあ」と源さんにすっかりバレました。源さんのこの曲に込めた想いと仕掛けに改めて感心、尊敬しました。

そんな中でも、容赦なく課題チェックは淡々と進みます。そしてつらい現実がやってきました。



Instagram星野源公式より



テレビ朝日「ミュージックステーション」5/1

全国大会が、なくなった… いまできること

5/10（日）、正式に「全日本吹奏楽コンクール」「全日本マーチングコンテスト」の中止が発表されました。この2つの大会で全国に出るために高校生活をかけてきた3年生にとっては、余りにも酷な、絶望しかない知らせでした。

やっと合流してきた新入生のファーストステージになるはずだった定期演奏会も延期を余さなくされました。

何のために練習をするのか。何を目標にしたいのか。そんな部員を励ますようにCBCテレビさんから「手洗いキャンペーン」の動画作成の依頼が入り、今度は新入生も入って2曲目のテレワーク合奏に取り組みました。この様子を5/19（火）の「チャント！」で暖かく紹介

CBC×吹奏楽部
今できること



してくれました。そのディレクターさんが共感してくれて、絶望の中でも頑張る生徒の姿を「手洗い啓発キャンペーン」として渾身の編集で1本のCM作品に仕上げてくれました。映像はすべて生徒のスマホで自宅で撮影し、リモートでやりとりしました。この作品は日本民間放送連盟賞CM部門で優秀賞を受賞しています。

「はじまり」

前後して今年の「合唱と吹奏楽」として準備していた「はじまり」の楽譜が完成。最後のリモート合奏作品となりました。

高校ラグビーの公式応援ソングとして作られた「はじまり」は、敗者として大会を終えるすべての高校生へのエールが込められています。絶望の中で前を向こうとしていた生徒たちの気持ちに寄り添うものとなりました。曲の最後に流れる生徒たちが自分たちで作上げた手話合唱のメッセージも、気持ちのこもった素晴らしいものでした。

合唱は音と気持ちを合わせながら歌うものです。しかも初めて歌う曲ではイメージもバラバラで細かいタイミングが合わせられません。集まってきた歌の動画を単に重ねた最初の版はものすごく下手な合唱でした。顔を併せて合唱すれば、段々あってきてそんなに難しいことではないことなのに、テレワークの難しさに直面しました。編集で1小節ずつ一人ずつ音声トラックをバラバラにして微調整を掛けていくと、魔法のように音がクリアになり美しい歌声が再現され、編集しながら涙が出てきました。

合唱と吹奏楽
はじまり



部長の言葉

休校空け直前に放送された5/28（木）東海テレビ「One」の特集でもとりあげいただきました。リモートインタビューをうけた西部部長の言葉を紹介します。

「自分ひとりで孤独に感じて撮ったものが、こんな温かみのある作品になるんだとすごく感じて、演奏を聴いて元気をもらえた、励ましてもらえた、という言葉を見て、自分も前向きに元氣になれた」

「苦しいことや辛いこともあったけど、それを乗り越えて周りにつながりが強くなった年だよ伝えたい。当たり前がありがたいこと気づけた私たちの代にしかできなかったこと、大会がなくなって“残念な学年”や“悔しい学年”と思われるのではなく、自分たちは幸せな学年ってことが伝わるかを考えて、充実した時間を作ろうという意思でやっています」



次の舞台へ

6/1（月）無事休校が空けCBCテレビの生中継で最初の部活が始まりました。合奏ができないという制約はありながら、仲間と音を合わせられるよろこびに満ちあふれた生徒の顔は忘れられません。

合奏力は衰えましたが、音程や音型が以前の2段階以上の精度で合うようになり、吹奏楽で一番大切なハーモニーの美しさが安定しました。初めてのホール練習ではキラキラ光り輝くような響きを放ち、涙が出てきました。リモートワークで自分の音に向き合い基礎練習をひたすら行ったことが大きな財産になりました。

先日無事定期演奏会を行うことができ、お客さんの前で演奏することが、拍手をもらうことができることが、こんなに嬉しいものだと改めて生徒は感じたと思います。失ったものは大きいですが、私たちは得がたい半年を過ごすことができました。リモートワークがなかったら、この幸運もつかめなかったでしょう。

2つの大会はなくなりましたが、全国が決まった日本管楽合奏コンテスト、初挑戦の日本マーチングバンド協会の2つの全国大会（動画審査）に向かって特訓の日々が続きます。生徒とともに大人達も楽しみながらサポートしていきたいと思います。



部活動Report

2020年4月～10月

陸上競技部

大会新が3つ！ 西三河新人女子総合6連覇！

みんなを信じて 女子総合6連覇

2年4組
手島 美咲
(竜海中学校出身)

新人戦は1、2年の力が試される大事な試合でとても楽しみにしていました。きっと優勝できるとみんなを信じていました。そして6連覇という偉業を繋げていけたことにとても安心しました。また、私が出場した4×100mRでは大会新記録を出して優勝し、100mでは高校生になって初めて個人種目での優勝を果たすこともできました。コロナウィルスの影響で大きな声が出せない中、仲間が拍手をしたりうちを振ったりして応援する姿、それに応えようとゴールを目指して走り、遠く・高く跳び、投げようとする姿は、みんな輝いていました。もっとチームとして成長できるようにこれからも全員で頑張っていきます。今後も応援よろしくお願いします。



大会新記録で優勝！ 来年はインターハイへ



1年9組
石川 凜
(平坂中学校出身)

風が強い中での大会でした。走幅跳の試合は2m以上の追い風参考記録が続いていました。最後6本目に+1.9の公認記録になる風で跳ぶことができ、さらに大会新記録での優勝を果たすことができました。初めて挑戦した三段跳では追い風参考記録ながら、全国標準記録を超える記録で2位になることができました。しかし記録はベストではなく、全国標準を切れなかった悔しさもあり、優勝したものもっと記録を伸ばしたかった気持ちがあります。来年は走幅跳でも三段跳でもインターハイを目指し、全国で活躍できるよう頑張ります。

ライバルに勝って 県大会へ



1年11組
鳥居 大隼
(六ツ美中学校出身)

200mのレーンを確認した時、同じ中学校でライバルだった仲間の名前が隣のレーンにありました。それを見て「彼に負けたくない」という強い思いが生まれました。レース当日は強い向かい風の中、予選から決勝へ勝ち上がり、自己ベストを1.5秒も上回る記録23秒31で6位入賞！中学時代に勝つことのできなかったライバルにも勝ち、県大会出場を決めました。安城学園高等学校を選択し、自分の可能性を信じて頑張ってきた練習が実を結んだのだと思います。この結果を励みに、満足することなくもっと高い目標をもってこれからも練習に努めていきます。

絶望から希望へ インターハイ代替え全国大会 10月出場！



3年10組
竹内 佑里花
(三谷中学校出身)

インターハイがなくなったと聞いたときは、大きな絶望感に押し潰されたくさん泣きました。高校では陸上で勝負するために安城学園高等学校を選択し、「私でも全国選手になれるのか」と不安を抱えながらも必死に練習してきました。高校3年間の中で何度も壁にぶつかり、苦しさ悔しさを経験しました。それでも、私と向き合い指導してくださった先生、励ましてくださった先輩方、支えてくれた親、ともに練習に励んだ後輩や、たくさんの方のおかげでインターハイ代替え全国大会に出場できることになりました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。目標であった全国を楽しんで、思い切った投げをしています。応援よろしくお願いします。

男子バスケットボール部

すべてに感謝して 最後の大会へ



3年9組
都築 圭人
(前林中学校出身)

インターハイ出場という目標がコロナの影響によりなくなってしまうことに加え、部活動すらやることができずモチベーションを保つ事はとても大変でした。学校に行くことができなかった自粛期間中は、一人ひとりが今できるベストの練習をして、体作りに励みました。今まで当たり前のように使えた体育館が使えなくなってしまうことで改めて体育館を使えること、仲間と一緒にバスケットができることのありがたみを身に染みて実感しました。最後の大会では2年半の努力の成果を発揮できるように全力でがんばります。

女子バスケットボール部

全国の舞台で 最高の結果を



3年6組
齋藤 利恵
(安城南中学校出身)

今年は新型コロナウイルスの影響で多くの大会や行事がなくなってしまいました。高校バスケット最後のインターハイがなくなってしまった時はとても残念でした。ですが、まだウィンターカップがある、ポジティブにこう意識する事はチームで決めていました。練習試合や毎年恒例の遠征もなくなってしまいましたが、仲間同士で練習の雰囲気盛り上げ毎日充実した日々を送ることができました。まずはウィンターカップに出場する切符を勝ち取り、全国の舞台で最高な結果を残せるようにしたいと思います。

部活動Report

2020年4月～10月

野球部



「苦しい時こそ前を向け」 逞しく成長した勇姿

常々声をかけたのは「休校期間が終わった時にこれをチャンスと捉えられるような生活を送ること。やれることは必ずある。苦しい時こそ前を向けだ」。この言葉通り、生徒は毎日ビデオ通話でのミーティングやトレーニングを行い、休校前より心身ともに逞しく成長しました。その結果、大会では本校4年ぶりの完封勝利。二回戦では愛産大三河高校に敗れましたが、最後まで果敢に戦いました。その勇姿は後輩に受け継がれ、後輩が秋季大会では県大会出場を決めています。これからの野球部にご期待ください。(顧問 増永和夫)

男子サッカー部

県大会出場決定 感謝を忘れず先の目標へ



3年6組
大門 昂大
(碧南中学校出身)

インターハイが中止になり、全国を目指していた仲間の夢が奪われました。そんな中、全国高校サッカー選手権大会は開催することが決まりました。僕たちは、感謝を忘れず、毎日部活動課題に取り組み、ZOOMでミーティングをし、気持ちを落とさずやってきました。その結果、西三河第1シードの豊田南高校を4-2で破り、3年ぶりの県大会出場を決めました。僕たちの目標はまだ先にあります。ここで満足することなく、県大会でも安城学園高校男子サッカー部らしく「応援してくれる全ての人を幸せにするサッカー」を繰り広げていきます。



ハンドボール部

これからも応援される チームを目指して

新型コロナウイルスでの休校中は、各学年で1時間モートトレーニングをし、体力を落とさないようにダッシュ・ランニングも各自行いました。その結果、県選手権(西三河予選)・西三河選手権・碧海大会と優勝することができました。これからも「清く・正しく・美しく」をモットーに、ハンドボールが楽しめる環境に感謝し、多くの方々に応援していただけるチームを目指し全力で取り組みたいと思います。(顧問 栢山美鈴)

女子サッカー部

第29回全日本高等学校女子サッカー選手権 東海地域大会出場権獲得

3年10組
山口 あずみ
(高師台中学校)

高校選手権県予選決勝リーグ3試合の結果、2017年度以来となる東海地域大会への切符を掴み取ることができました。皆様の応援が力となりました。本当にありがとうございました。

愛知県の高女子サッカーは群雄割拠の時代を迎えており、連日激闘が繰り広げられています。本校も例に漏れず、苦しい戦いを続けてきました。それでも決して諦めずに走り抜くことができたのは、苦楽を共にした27名の部員との「結束」があったからこそだと思います。インターハイの中止など、心が折れそうな時もこのメンバーだからこそ乗り越えることができました。東海地域大会では、自分たちの力を最大限発揮し、目標の「全国出場」を必ず達成させます。引き続き応援宜しくお願い致します。



吹奏楽部

日本管楽合奏コンテスト、全国大会へ 皆さんの心に響くような演奏を

3年11組 近藤 奈津美 (梅坪台中学校出身)

今年度は、目標としていた全国吹奏楽コンクールが新型コロナウイルスの影響で中止になってしまいました。感染予防のため活動に制限があり、思い通りに練習できず悩むこともありましたが、録音審査で行われた日本管楽合奏コンテストにて3年連続で全国大会への出場が決まりました。例年とは異なり全国大会は配信での演奏ですが、私たちの音楽をたくさんの方に聴いていただけることを嬉しく思います。仲間とともに演奏ができることへの感謝の気持ちを忘れず、普段から活動を支えてくださる全ての方々の心に響くような演奏をお届けしたいです。



弦楽部

積み上げてきた練習の 成果を全国の舞台で

3年2組 杉浦 奈那 (福岡中学校出身)

弦楽部は37名で活動しており、部員の大半は高校から始めた初心者です。今年は練習環境が大きく変わり、思うように練習できないこともあります。今年度も秋に行われる第9回日本学校合奏コンクール2020全国大会にソロアンサンブルグランドコンテストの各部門で出場が決まりました。全国というステージがあることに感謝し、今まで積み上げてきた練習の成果を発揮できるようにがんばります。応援よろしくお願いします。



創作作品にも挑戦 後期は高文連書道展 などに向けて活動

今年度、コロナ禍により3年の最終作品展となる私学展が中止となり、学園祭での作品発表が最後の場となりました。古典臨書の半切作品だけでなく、創作での色紙作品にも挑戦。後期は、高文連の三河部書道展への作品制作、硬筆毛筆検定を軸に活動を展開します。(顧問 中嶋 朱子)



合唱部



受賞は最高の思い出 よりよい合唱部を目指して

3年4組 佐藤 徳花 (刈谷東中学校出身)

8月に行われた東京国際声楽コンクール地区大会高校アンサンブル部門に2チーム出場し、両チームともに入選しました。また1チームは優秀賞を受賞しました。新型コロナウイルスの影響で西日本大会への出場は断念しましたが、3年にとって最後のコンクールは、悔いのない最高の思い出になりました。このコンクールを通して部員一人ひとりの意識が高まり、成長することができました。今回この結果をいただけたのは、指導してくださる先生方、保護者の方々、応援してくださる皆様のおかげです。本当にありがとうございました。これからも部員全員で助け合い、よりよい合唱を目指していきます。

美術部

作品「後悔の雨」が アートフェスタ展示部門に展示

3年5組 倉地 美羽 (幡豆中学校出身)

作品タイトル「後悔の雨」が、昨年度行われた「西三河高校生徒美術展」において優秀作品として選出。8月18日～23日に開催されたアートフェスタ展示部門に展示されました。文学をテーマにしたインスタレーション作品です。会場に訪れた大村知事も、大変興味深く観ていかれたそうです。



学び探究部

調査研究など自ら進んで楽しく 新しい学びのスタイルを探究

今年から新しく始まった部活動です。従来の塾が担ってきた学習だけでなく、調査研究とその発表を行ったり、フィールドワークに出かけたり、新しい学びのスタイルを探究します。学校が休校の間は英語のオンライン授業や数学クイズの動画配信などを行い、学校が再開すると、新入部員とともに興味関心をきっかけに調査研究などを進めています。今は高校生マイプロジェクトアワードに向けて活動中で、予選を勝ち抜いた1グループが中部大会に出場することが決まっています。部員からの提案で、学び探究部は今2匹のヤドカリを飼っています。部員全員が自ら進んで楽しく学んでいます。(顧問 北林晃)

学び探究部
公式サイト



クラブ大会試合結果一覧

◇男子バスケットボール部

西三河支部夏季選手権大会 Gブロック 優勝

◇女子バスケットボール部

西三河支部夏季選手権大会 Uブロック 優勝

◇野球部

秋季西三河高等学校野球大会 県大会出場
第79回全国高等学校野球大会選手権愛知大会 二回戦出場

◇陸上競技部

西三河新人大会
2年 池田光太郎 ハンマー投優勝・砲丸投優勝
2年 佐川博也 110mH2位・400mH2位
2年 吉村 歩 110mH4位
1年 阿部慧吾 砲丸投4位
1年 万前瑞葵 100m4位・200m3位
1年 福井篤輝 走幅跳4位・三段跳6位
1年 鳥居大集 200m6位
4×100mR2位

1年福井篤輝、1年万前瑞葵、2年宮前友哉、1年鳥居大集
2年 竹田実紗 1500m3位
2年 手島美咲 100m優勝・200m4位

2年 中根 葵 100m4位
2年 小山愛結 800m優勝・400m優勝
2年 原田愛音 砲丸投優勝・ハンマー投優勝
2年 村瀬心優 400mH4位

2年 野村美咲 走高跳5位・三段跳3位
2年 飯田真衣 200m3位
2年 磯部早良 1500m優勝・3000m優勝

2年 石原美空 400m4位
2年 渡辺柚那 3000m4位
2年 杉浦花音 3000m3位

2年 長谷川葵 三段跳5位
1年 中村仁南 100mH3位・400mH6位
1年 村松 優 走高跳4位

1年 榊原詠美 100mH優勝
1年 小寺こころ 走高跳6位
1年 石川 凜 走幅跳優勝大会新・三段跳2位

1年 小山心結 800m2位・1500m5位
1年 小松このみ 100m5位
4×100mR優勝大会新

2年 石原美空、2年 手島美咲、2年 中根葵、2年 飯田真衣
4×400mR優勝大会新
2年 小山愛結、2年 飯田真衣、2年 石原美空、2年 中根葵

全国高校選手権リレー2020 in日産スタジアム(横浜)
女子400mリレー 組3着(チームベスト) 全体13位
1年 小松このみ、2年 手島美咲、2年 中根葵、2年 飯田真衣

女子1600mリレー組8着
2年 石原美空、2年 飯田真衣、2年 手島美咲、2年 中根葵
全国高等学校陸上競技大会2020

2年 小山愛結 女子800m2位
2年 磯部早良 女子1500m6位
3年 伊藤幹弥 男子走高跳10位
3年 竹内佑里花 女子ハンマー投10位

令和2年度愛知県高等学校駅伝競走大会
<男子>総合20位
1区(10km) 2年 宮崎デビッド
2区(3.0km) 2年 杉浦一峰

3区(8.1075km) 3年 大竹杏門
4区(8.0875km) 1年 藤井智規
5区(3.0km) 1年 藤田健太郎

6区(5.0km) 1年 小山空楽
7区(5.0km) 3年 米津寿一

<女子>総合優勝(全員が区間賞)
区間賞1区(6.0km) 2年 磯部早良
区間賞2区(4.0975km) 2年 竹田実紗

区間賞3区(3.0km) 2年 小山愛結
区間賞4区(3.0km) 3年 永谷千宙
区間賞5区(5.0km) 2年 杉浦花音

◇バドミントン部

全三河選手権大会
女子ダブルス 3位 深谷郁美・篠原妃和
女子シングルス 準優勝 深谷郁美

3位 押切涼乃
ベスト8 篠原妃和、石丸星
愛知県高等学校新人体育大会全三河予選

女子団体 準優勝
女子ダブルス ベスト8 深谷郁美・篠原妃和、押切涼乃・大西麻由
ベスト16 石丸星・菅河原美咲
女子シングルス ベスト16 深谷郁美、篠原妃和、石丸星、押切涼乃

◇ソフトボール部

愛知県高等学校女子ソフトボール選手権大会 ベスト8
第53回全三河高等学校ソフトボール選手権大会 準優勝
愛知県高等学校新人体育大会西三河支部予選 準優勝
愛知県高等学校新人体育大会ソフトボール競技 ベスト8

◇ハンドボール部

西三河ハンドボール選手権大会 優勝
碧海大会 優勝

◇男子硬式テニス部

テニス西三河選手権大会(団体の部)3校リーグ戦
3年チーム 本間、岩月、石飛、石貴、唐澤、加藤、大羽
高浜高校BにS1、S2、S3、D1、D2に全勝
刈谷工業高校AにS1、S2、S3、D1、D2に全勝
1年チーム 高浜高校A、岡崎北高校Aに敗退
愛知県テニス新人体育大会 西三河予選
シングルス ブロックベスト8
団体戦 2回戦出場

◇女子硬式テニス部

愛知県高等学校新人体育大会西三河予選
シングルス
2年:杉浦ひなた 1年:渡邊美空、新海容子 ブロックベスト8
2年:松岡沙奈、山崎満理奈 1年:高島莉央(不戦勝) 2回戦進出
2年:福井、村田、安田、藤田 1年:榊原、澤木、川畑、松川 初戦敗退
ダブルス
2年:福井・1年:榊原ペア ブロックベスト8
1年:渡邊・新海ペア 2回戦進出
2年:村田・山崎、松岡・杉浦、安田・藤田
1年:澤木・川畑、高島・松川 初戦敗退

◇男子サッカー部

第99回全国高校サッカー選手権大会愛知県西三河予選 県大会出場
高円宮杯U-18サッカーリーグ西三河2部リーグ(10月12日現在首位)

◇女子サッカー部

国体愛知代表候補選出
伊藤梨那、北村ほのか、青葉結衣
愛知県高等学校女子サッカー大会 準優勝
県U18レセン選出
北村ほのか、青葉結衣
第29回全日本高等学校女子サッカー選手権愛知県予選 全勝
ブロックトーナメント準優勝 県2位で東海大会出場決定

◇アーチェリー部

愛知県高等学校アーチェリー大会
男子の部 3年牧野悠斗、2年成瀬陽
愛知県選手権大会
男子の部 2年犬塚文瑠、2年成瀬陽、2年稲垣凜音
女子の部 2年崎田菜海 6位入賞
2年大村琴美、2年岡田聖奈
令和2年度秋季アーチェリー大会
女子の部 2年崎田菜海 4位入賞

◇ダンス部

第13回 日本高校ダンス部選手権ダンススタジアム 東海・北陸大会出場
第10回 全日本高等学校チームダンス選手権大会 中部予選出場

◇バレーボール部

第73回全日本バレーボール高等学校選手権大会
西三河支部予選会 優勝 県大会出場

◇吹奏楽部

第26回日本管楽合奏コンテストB(大編成)部門 全国大会出場決定
第39回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール
木管部門(アルトサクソ) 全国大会5位 山田美羽
第30回日本クラシック音楽コンクール
サクソ部門 山田美羽 全国大会出場決定

◇合唱部

第12回東京国際声楽コンクール地区大会入選、優秀賞受賞
第30回日本クラシック音楽コンクール
声楽部門 宮村千恵美 全国大会出場決定

◇弦楽部

第9回日本学校合奏コンクール2020ソロ&アンサンブルコンテスト
ソロ部門
ヴァイオリン独奏 相川詩緒里 全国大会出場
ヴィオラ独奏 杉浦奈那 全国大会出場
アンサンブル部門
弦楽アンサンブル 全国大会出場
弦楽五重奏 全国大会出場

留学生報告

コロナ禍でも貴重な経験 安心できる留学制度

1年1組
杉浦愛子
(甲山中学校出身)

私は現在、カナダアルバータ州カルガリー市の高校に、1年間の留学プログラムで滞在しています。新型コロナウイルス感染症の流行のため、通常の留学とは違った経験をしていますが、さまざまなところでとても貴重な経験ができています。全てが英語での授業で、周囲の環境にも馴染めず辛いこともありましたが、先生が丁寧に教えてくれるのですぐに楽しめるようになりました。

コロナによる影響はありましたが、安城学園高等学校の留学制度により現地校で取得した単位を本校で認定してもらえるため、安心して海外で学ぶことができます。このような状況下でも入学時のクラスメイトと一緒に卒業できる制度があることは、安城学園高等学校の良いところだと思います。この留学を終えた後も、経験を生かして頑張っていきます。



生徒会活動報告



前期生徒会を振り返って

2020年度前期生徒会は「#Film」という方針のもと、学園祭の運営や常任活動などさまざまなことに取り組んできました。今年は新型コロナウイルスの影響により例年より期間が短く大変でしたが、生徒会役員全員で工夫を凝らし、何とか今日ここまでくることができました。短い間でしたがありがとうございました。

前期生徒会メンバー紹介

会長	2年1組	末永 遥巳	(愛知教育大学附属岡崎中学校出身)
副会長	3年6組	近藤 優華	(竜北中学校出身)
書記	3年3組	澤田 柚葉	(一色中学校出身)
会計	2年1組	築山 光流	(前林中学校出身)
渉外	2年4組	矢野 心絵	(栄中学校出身)
渉外	1年7組	稲熊 大樹	(篠目中学校出身)

商業科BIGプロジェクト

多くのことを学んだインターンシップ

商業科 酒井美津子

商業科1年生を対象に、1学期で社会や働くことへの理解を深め、夏休み期間も利用して7～8月の間でインターンシップ職場体験を行いました。体験の中で生徒は「自分たちで一から考えることによって、仕事を終えたときの達成感や満足感を知ることができた」「『自分から』を目標に頑張ることで、いつもできないようなことを進んでやることができた」など、働くこと・人と関わること・相手のことを思いやること・協力することなど、多くのことを学びました。他者との接触が難しい状況の中、受け入れをしてくださった事業所の方々に感謝致します。2学期以降は各自の体験をまとめ発表をし、自分の未来を考える時間になります。

